

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175100799		
法人名	株式会社 アイム		
事業所名	グループホーム健康倶楽部新座		
所在地	埼玉県新座市中野1-5-5		
自己評価作成日	平成30年2月28日	評価結果市町村受理日	平成30年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成30年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当社の企業理念は、『あなたに寄り添います。』です。職員は、利用者様の尊厳の維持に努め、利用者様に寄り添い、日常生活に、生きがいを持って頂ける様に、介護に向き合っています。又、利用者様の体調の変化を見極めて、医療連携しております。利用者様が、精神的に不安定な時は、何が要因で、そうした感情になるのかを、職員間で話し合い、共通認識を持って対応しています。地域資源にも恵まれた環境です。近くに跡見女子大学がある為、利用者様がお散歩する際に、利用しています。利用者様の生活歴を考慮して、日常生活において継続して実行出来る趣味についても、施設の1階にデイ・サービスがある為、習字教室や裁縫教室に参加頂くこともあります。歌会や映画鑑賞・手品会にもご参加頂くこともあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念や行動指針が職員に徹底され、利用者とのコミュニケーションとその思いを大切に、健康で生きがいある暮らしを過ごされるよう、チームでケアに取り組まれている。
 ・運営推進会議では、事業所から利用者の暮らし振りや活動報告のほか、参加者からも地域交流企画や事故防止対策、福祉用具の選び方や導入時期など、幅広い内容での意見交換が行われ、有意義な会議運営をされている。
 ・目標達成計画についても、居室でマッサージを受けたり、新聞や雑誌を読まれたり、好きな編み物を楽しまれるなど、利用者一人ひとりの思いを大切に、生きがいのある日々を過ごされるよう取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念である「あなたに寄り添います。」を、実践出来る様に、利用者様本人の気持ちを尊重し、利用者様に寄り添った介護を信念にしています。	企業理念や行動指針のもと、利用者とのコミュニケーションとその思いを大切に、健康で生きがいある暮らしを過ごされるようチームでケアに取り組まれるなど、理念が活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様をお連れして、お散歩コースである跡見女子大学へ行く際に、ご近所の方とお話しをしたり、校庭をお散歩中に、学生とお写真を一緒に撮ったりすることがあります。	散歩や外出の際には地域の方と挨拶を交わされたり、おしゃべりを楽しまれている。また、デイサービス利用者やボランティアの方々との交流など、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を、年間6回、隔月1回実施しています。その際に、町会の方や、民生委員等の地域の方に、認知症の方の理解をして頂ける様に、意見交換の場を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、利用者様の健康状態や事故報告をしています。又、施設の特色や日中のご様子について、意見交換しています。	運営推進会議では、事業所から利用者の暮らし振りや活動報告のほか、参加者からも地域交流企画や事故防止策、福祉用具の選び方など、幅広い内容での意見交換が行われ、事業所運営やサービスに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所主催の勉強会の参加や、補助金制度のお知らせ、施設からの事故報告の提出を受けての指導を頂いております。	行政の担当者には運営推進会議でアドバイスをいただいたり、報告・相談時や研修の機会にはコミュニケーションを図られ、良好な協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の尊厳を維持に努め、介護者側の都合による介助や身体拘束をしない。施設の勉強会を実施しています。玄関は施錠をしています。	定期的に研修が行われ、管理者及び全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め、身体拘束をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設の勉強会を通して、何故、『虐待行為がいけない事なのか』を理解してもらっています。防止措置として、フロアーに、監視カメラを設置しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設の勉強会でテーマを絞って、講習会をしています。講師の方へ、講習内容をお願いすると、資料を配布して講習会を予定して頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が不明瞭な事がない様に、事前に契約書のコピーを渡します。契約は、重要事項の説明を含めて、職員が書類を読み上げて、要件ごとに、質問を受ける形で、ご契約書に署名して頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議には、ご家族様の代表も出席しています。町会長・介護保険課・地域包括・民生委員の方へ、家族代表としてご意見を述べて頂いております。	「娘に会いたい」、「買い物に行きたい」など、利用者個々の要望に応えられている。家族とは面会時や運営推進会議のほか、イベント後の機会に意見・要望を聴き取り、事業所運営や日常のケアに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロア会議を毎月1回実施しています。職員からの意見は、デイ管理者とグループ管理者で話し合い、代表取締役へ報告して、施設運営の健全化に繋げています。	発言し易い環境がつけられ、定例会議や個別面談時に意見・提案が聴き取られ、食の進めぬ利用者への温泉たまごの提供や住環境の整備など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価シートを作成しています。リーダー・管理者が、確認して、個人面談を行い、本人の知識や意識の向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設として、個人が受けた自己啓発を尊重して対応しています。又、リーダー又は管理者候補の職員へは実践者研修及び管理者研修を受ける様に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所主催の勉強会に参加して、交流を深めています。同業者との意見交換の場で、当施設でも実施出来る事を検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、実地調査を行い、ご家族様から利用者様本人の生活歴やご意見をお聞きした中で、ご家族様の要望に応えられる様に、職員一同取り組んでおります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を通じて、ご家族様から入居前の不安材料を話して頂いています。ケアプラン・個別援助計画書に、反映出来る様に心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の要望に沿った形でケアが実行出来ているか、他のサービスも含めて支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の尊厳の維持を大事に考えて、利用者様の言葉に耳を傾けて、対応をしています。ご本人が困っている事を職員が、日々のご様子から察知して、信頼関係を深める努力をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が施設にいられた際に、会話の中から、利用者様にとっての要望を察知して、理解する事で、現時点で実践出来る事を、ご家族様と共有しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が大切に思う方は、職員にとっても同様です。笑顔でお迎えして、利用者様とのコミュニケーションが円滑に出来る様に努めています。	友人・知人の面会、デイサービスの利用者がおしゃべりを楽しみに見えたり、一緒に機能訓練に取り組まれている。また、家族の協力を得ての墓参りや買い物など、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれが、他者に対して共感出来るように、職員が間に入り、お話しやレクリエーションを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の健康状態やご家族様のご都合で退居になった場合でも、ご家族様との関係を大切に考えて対応を心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の性格や大切にしているものを、理解して声掛けや傾聴に努めています。又、利用者様が充実した生活が出来る様に、会議で個別援助計画について意見交換をして、実施しています。	利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、声かけを行うことで、思いや意向の把握に努められている。意思疎通の難しい利用者についても、日頃の関わりの中で、表情や仕草などから汲み取られ、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴やADLを考慮して、生活環境を整備して、対応しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員自身の『気づき』を考慮して、その日の健康状態で注意すべき点を申し送りを通して共有して介護に向き合っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議を通じて、職員同士の共通認識を持ち、家族の要望や住環境の整備などを意見交換して、今後のケアプランに反映しています。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、居室担当を中心に、医師・看護師からの指示を含め、関係する職員間で意見交換を行ない、その人らしさを大切にした介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の生活状況をケア記録に記載して、共有しています。そうした記録は、フロア会議や医療連携に活用しています。特変があった場合は、訪問内科の医師に報告して、指示を頂いています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランを通して、ご家族様の要望を考慮に入れて対応しています。職員の気づきをフロアに反映させて、その日の健康状態を考慮して、柔軟な対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる音楽会の鑑賞をする。跡見女子大の校庭を散歩することがある。平林寺の紅葉鑑賞などの地域資源を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の同意を得て、施設と連携する病院(内科)の医師に、定期的に診察をして頂いている。又、主治医の指示や家族の要望を尊重して、他の医療機関への受診も実施しています。	利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援も適宜行われ、医師への必要な利用者情報の提供を行ない、適切な診療が受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の方には、健康状態を診てもらっています。デイサービスの看護師が常勤している為、緊急時の対応をしてもらっている。病院受診への判断をしてもらう事もあります。点滴投与もお願いする事があります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様のご家族へ分かり易くお伝え出来る様に、医療連携を密にして、生活状況から読み取れる問題を内科Dr.へご報告しています。内科Dr.との医療連携も実施しています。入院・退院についても、施設で出来る事を努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する要望や意見を、早い段階から伺っています。施設で隔週見て頂いている内科の医師との医療連携を行い、利用者様の健康面を重視した対応をしています。	身体状態に変化が生じたときには、都度話し合いを持たれ、事業所で過ごすメリットやデメリットを伝えられたり、他の医療機関や施設を紹介するなど、事業所として出来る最善の方法に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中・夜間と、主治医の指示を頂ける様に、医療連携をしています。緊急対応についても、会議を通じて、緊急時の対応を実践しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年1回実施しています。消防設備の点検は、年2回実施しています。	定期訓練では3階台所からの火災発生を想定し、初期消火・通報・各フロア毎一次避難場所までの避難誘導訓練に取り組まれている。また、地震発生を想定した訓練や備蓄品の整備など、体制整備に努められている。	災害対策には十分取り組まれています。災害は、いつ、いかなる災害が起きるか予測が出来ないことから、水害対策などの検討など、組織対応力の向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場に立った介護をしています。特に、入浴や排泄の場面では、心配りをしています。	常に優しい笑顔で、利用者に寄り添うことを心がけるなど、利用者の人格を尊重した対応や排泄、入浴時の羞恥心に対する配慮など、きめ細かな注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の気持ちを考えて、声掛けをしています。その時々体調やご気分もあるので、ご本人の意思を尊重して対応をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活リズムを尊重して、出来る限りご希望に合わせた介護をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の気持ちを尊重して、ご本人が出来る事を奪わずに、声掛けや傾聴して対応をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状は、歩行時に転倒のリスクを伴う方や、車椅子の利用者様が多い為、食事の準備や片付けに参加出来る方が少ない為、少数の方しか実践出来ていません。	一部の利用者に限定されるが、じゃが芋の皮むきや味噌汁づくりなど、職員と共に行っている。たこ焼きや桜餅づくり、誕生日会のケーキづくりなど楽しんでいるほか、毎年恒例のマクロ解体ショーや季節のおはぎが提供されるなど、食の楽しみを大切にしたり取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の健康状態を考慮して、食事量や水分量を考えて対応しています。嚥下機能が低下している利用者様には、トロミ剤を入れて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	隔週予定している訪問歯科の指導を元に、口腔ケアをしています。ご自身で出来る事と職員のサポートが必要な場面を考慮して対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現状は車椅子の利用者様や歩行時に転倒のリスクを伴う利用者様が多い為、自立に向けた支援というよりは、ADLの低下を防ぐ対応になっています。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握し、定期的なトイレ誘導を行い、できる限りトイレで排泄していただけるよう努められている。また、利用者の羞恥心にも配慮し、失禁時には他の利用者にはわからないように声かけするなど、さりげなく支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境を良くする為、毎朝ヨーグルトを摂取して頂いております。食事介助についても、良く噛んで食べて頂くような声掛けや食事介助をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔を維持して頂く為、最終入浴日の管理は、施設でしていますが、入浴準備をする際に、声掛けして対応しています。どうしても、入浴拒否があった場合は、職員都合で行わない様になっています。	利用者の状態に合わせたシャワー浴を含め、希望に沿った支援をされている。入浴拒否の方には無理強いすることなく、声掛けの仕方や職員を替えたり、工夫をし支援をされている。また、ヒートショック対策や職員複数での支援体制を敷くなど、安全対策が取られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や希望に合わせて、対応しています。昼食後に、1時間ほど昼寝を希望する場合は、居室で休んで頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	隔週来て頂いている訪問内科の診察後に、薬情変更があった場合や効能について、フロアで共通認識出来る様に、書類確認を含めて実行しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来る事を日中の時間に取り入れています。又、ボランティア行事や他者交流の機会を場のレクリエーションを通して考えております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現時点では、車椅子や歩行時の転倒リスクを伴う方が多い為、定期的な外出行事が出来ていません。ご家族様からの外出希望については、健康状態を優先して対応及び協力しています。	事業所周辺での散歩や屋上で外気浴のほか、中庭で食事をされたり、職員と一緒に買出しに出かけられている。また、季節ごとの花見や紅葉狩り、家族の協力を得ての外出など、利用者の希望を大切にされた支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状は、利用者様ご自身での金銭管理が難しい為、施設側で金銭管理をして、ご家族様へは、毎月精算書を添付して報告させて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設として、毎月1回利用者様の写真を添付して、生活状況を記入したお手紙をお送りしています。又、熱発や怪我の連絡も迅速に対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアでの共用空間は、利用者様にとって、大事な場所なので、住環境を整備して、楽しい時間が過ごせる様に熟慮しています。又、季節を感じて頂ける様に、レクリエーションで作成頂いた工作や絵などを掲示しています。	共用スペースは広い廊下と和室スペースのほか、リビングルーム天井部には明かり取りがあり、明るく開放的な設えで快適な空間となっている。また、室内装飾は満開に咲いた桜やぬり絵が飾られ、利用者が気持ち良く過ごされるよう工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の生活スタイルを考慮して、ストレスを感じない様な配慮をしています。自室で過ごす時間が必要な方への対応も出来る限り実施しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、利用者様が愛用している家具や家族写真など、ご本人様が安心出来る住環境の整備に心掛けています。	馴染みの寝具や家族の写真、好みの週刊誌や書籍、新聞などが持ち込まれ、利用者が気分良くゆっくり過ごされるよう工夫をされている。また、居室は、毎日の清掃と週1回のリネン交換が行なわれ、共用スペースを含め清潔維持と衛生管理に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様のADLの低下や認知機能の低下に伴い、ハザードを取り払いリスクを軽減して、安全を重視した住環境の整備を心掛けております。		

(別紙4(2))

事業所名 健康倶楽部新座

目標達成計画

作成日: 平成30年 4 月 25 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策について 施設として、予測出来ない災害対策について、組織的に対応出来るようにする。	災害時における職員の役割分担を決めて、避難訓練を実施する。避難訓練における課題や問題点を職員と話し合い、実践出来る様に検討する。	新座市役所の防災課へ行き、ハザードマップを確認しました。災害時の避難場所・地震や洪水・土砂災害の危険度を確認しました。職員と話し合い、避難場所への誘導や利用者様をお連れする際の注意事項を検討しました。又、避難訓練において、実施を検討。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

